

DAIDO UNIVERSITY NEWS

# DAIDO

## CAMPUS

ISSUE

111

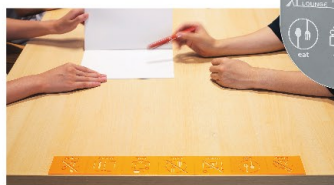
2024年  
12月発行

特集

X棟、ピクトグラム設置！ ほか



# X棟に ピクトグラム を設置しました!



2024年9月より、本学X棟内のテーブル等に、利用可能な行為を示すピクトグラムが設置されました。本企画は情報学部 情報デザイン学科 3Dデザイン分野の有志により実行されたもので、企画から制作までの全てを学生たち自身の手によって運営しています。本プロジェクトに参加した学生と情報学部 情報デザイン学科 舟橋慶祐准教授にインタビューを行いました。この取り組みは大同大学奨励賞を受賞予定です。

司会: 今回のプロジェクトに取り組むきっかけは何だったのでしょうか?

舟橋: 学内の会議で、X棟の各スペースにおける利用ルールが徹底されていないという問題提起がありました。既に、文字による注意書きの掲示がされていたのですが、効果が出ていませんでした。そこで、わかりやすく、かつ見栄えもよいものを制作することで、この問題を解決したいと思い、情報デザイン学科の学生から有志を募ったのが始まりです。学生にとっても、製作実績になりますし、学びになると考えました。

司会: それで総勢9名の学生が集まったんですね。プロジェクトはどのように進行していきましたか?

学生: 4月の中旬から打ち合わせがスタートして、9月中旬に設置が完了したので、5か月もの時間を費やしました。ピクトグラムを製作すること、デザインの方向性はすぐに決まりましたが、その後の調整に時間がかかり、夏休みの直前まで試行錯誤をしていました。夏休みに入ってから生産に入っていました。9月に設置するというゴールは決まっていたので、最後は夏休みを返上してみんなで作業していましたね。(笑)

司会: 夏休み返上! 製品の数量はどれくらいですか?

学生: 一番多く作ったのが、机の上に張り付けるタイプのもので、60個くらい。そのほかにも、看板形式のものを30個ほど作成しました。合計で100個ほどですね。

舟橋: このプロジェクトはデザインして終わりではなく、実物を生産しなければいけません。材料にレーザー加工を施すにあたり、材料の材質やデザインの太さ、形などの条件により、加工時に板が割れてしまったり、うまくデザインが表示されなかったりと、様々な問題が出てきます。そうした課題をクリアするために、グラフィックデザインとプロダクトデザインの両方

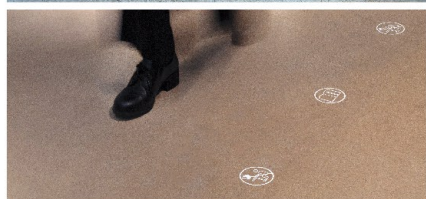
の視点から考えていく必要がありました。

学生: 与えられた予算の中で大量生産するにあたり、市販のノートについているカバーを再利用する方法を思いついたんです。その方が安く材料をそろえることができるので、みんなで買い出しに行きました。ただ、商品によって厚さが異なっていて、うまく加工できるものもあれば、そうでないものもあり、その調整が大変でした。

舟橋: 厚さも、薄すぎると加工ができないのですが、分厚くなりすぎると、はがれやすくなったり、物を置く際に邪魔になってしまったりと、実用面で問題が出ることもあります。そういった絶妙なバランスを見つけることが難しいですね。

司会: 確かに加工と利用のちょうどいいバランスを見つけるのは難しそうですね。最終的にはどんな結論が出たのですか?

学生: 某100円ショップで販売しているファイルが最適だという結論が出ました。(笑)



司会: まさか原材料が100円ショップの商品だったとは驚きです。他にも、デザインを調整しているときのエピソードはありますか?

学生: ある場所では、床にカッティングシートを張り付けて注意喚起をしているのですが、床がコンクリートのため、ひび割れている箇所もあり、

上手に張れるポイントを探したりするのが大変でしたね。

舟橋: そのエリアでは、テーブルが大量にあり、すべてのテーブルにピクトグラムを張り付けることは難しいと判断しました。そこで学生が考えたのが、床にシールを貼るというアイデアでした。

学生: 上手に貼ることも難しかったですが、しっかりと視認できるように、かつ景観とマッチするように、シールの大きさや配置もミリ単位で何度もテストを繰り返して、ベストな形を決めていきました。

司会: 実際に現地に赴いて、様々な角度から、デザインを工夫していったんですね。今さらですが、デザイン上のコンセプトを教えていただけますか?

学生: X棟の景観に合うことが大前提で、場所ごとに家具の色や雰囲気異なるので、それぞれの合わせたデザインや配色を考えていきました。

司会: 場所ごとにデザインを変えていくのは素晴らしいですが、それだけ労力もかかったかと思います。苦労したこともあったのではないのでしょうか?

学生: 我々の考えていることと、利用者の声を刷り合わせるために、設置前に学生部長の武藤教授(建築学部)にプレゼンテーションをする予定でした。ただ、プレゼンテーション前に武藤教授に説明をする機会があり、そこで実際の利用者の利用方法や、実態を知っている人ならではの視点や意見をいただき、プレゼンテーションまでにもう一度計画を練り直すことになりました。

司会: 作業も大詰めというところで、デザインを練り直すのは大変でしたね。ただ、実際の利用者の声を聞き、良いものを作っていこうとする経験はとても良い学びだと感じます。どのように乗り越えていったのでしょうか。



### 参加学生

情報学部 情報デザイン学科 3年生

加藤 碧さん、神田 直季さん、木村 日菜美さん、工藤 清流さん、  
小宮 佑斗さん、杉 明香里さん、竹本 有沙さん、羽田 翔さん  
大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 1年 白山 太一さん

**学生:** 今となっては、こちらの準備不足で、うまく意図も伝えられなかったと反省していますが、すぐ落ち込みました。もう一度考え直す必要があったのですが、グループ全体でも、このプロジェクトを重荷に感じたり、授業の課題が忙しい時期であったことも重なり、本当にしんどかったです。

**学生:** 落ち込んでいるばかりではいけないので、プレゼンテーションではしっかりとこちらの意図を伝えられるように、資料を作りこみました。提案内容も、いただいた意見を取り入れて、実際の利用状況を反映した形で提案しました。また、一つの方法だけでなく、複数の案を提示することで、良いと思ってもらえるアイデアを採用できるようにしました。

**舟橋:** 最初の説明では、資料もなく、意図を正確に説明できるような準備ができていませんでした。プレゼンテーションでは、複数のアイデアを提示するだけでなく、それぞれのアイデアを採用した場合、実際にどのように見えるのかを、イメージ画像で提示することで、伝わる工夫をしてくれていました。先ほどの床にシールを貼るアイデアも、そのプレゼンテーションで面白いと言っていただき、採用されています。

**司会:** 反省を活かして、より相手に伝わるように努力したんですね。

**舟橋:** プレゼンテーション資料のデータが深夜に更新されることもあり、みんな本当によく頑張ってくれました。



**司会:** 様々な困難を乗り越えて、ピクトグラム設置が完了したのですね。今回のプロジェクトに取り組んだ感想を聞かせてください。

**木村:** 普段入ることのない施設や設備を使用することができ、貴重な経験ができました。

**杉:** 今までにない発想でデザインに取り組むことができたので、参加して良かったです。

**加藤:** 普段の授業では、技術員の方をお願いしている加工作業も、自分で取り組むことができたので、技術力の向上につながりました。

**竹本:** 私は舟橋研究室所属ではなかったので、このプロジェクトによって他の研究室のメンバーと交流が持てたこと、つながりが生まれたことが嬉しいです。新しい視点も得ることができました。

**羽田:** 日頃触れない材料を加工する経験ができました。また、チームのために責任感をもって作業するという経験ができました。

**白山:** 自分が運営するAIラボの設備がこのプロジェクトの生産に役立ったことが嬉しいです。

**工藤:** 大人数のグループで作業することの難しさや、報告・連絡・相談や計画性の大切さを理解できました。

**小宮:** 普段の授業と違い、作るものが決まっておらず、この問題を解決するために「何を」作るのかというところからスタートしており、貴重な経験ができました。まさに「実学」だったと思います。

**神田:** リーダーという経験がすることが初めてでした。リーダーとして、メンバーに仕事を振ることが難しかったですが、みんなが協力してくれたおかげでやりきることができました。設置が完了したときの、達成感・充実感は忘れられません。自分を褒めたいです！

**舟橋:** 今回このプロジェクトに参加してくれた学生は、情報デザイン学科の中でも実力をもったメンバーだったと思います。優秀なプロダクト

デザイナーはグラフィックデザインもうまいので、その両面にこだわるプロジェクトとなったことに意義があったと思っています。

**司会:** それぞれに学びのある、素晴らしいプロジェクトでしたね。最後に、舟橋先生に今回のプロジェクトの総括をお願いいたします。

**舟橋:** 今回、学生たちが主体的にプロジェクトを進めてくれました。私が口出しをしたのは最初の導入くらいで、もう少し質問してくれてもよかったかなと(笑)。

デザインに関しても、学生が自分たちでよいものを作ってくれて、とても頼もしかったです。とはいえ、このプロジェクトは作って終わりではありません。実際に使われて出てくる課題に対応していく必要があるので、これからが始まりですね。

**司会:** 情報デザイン学科では、このプロジェクトのように、授業外での活動が盛んな印象があります。このような授業外での取り組みにはどのような効果があるとお考えでしょうか。

**舟橋:** 授業内では教員に提案して終わりですが、こういったプロジェクトは実際の利用者の声も聴きながら計画を修正していくなど、よりプロの仕事に近い内容になっています。それにより技術力はもちろんのこと、責任感が養えると考えます。プロジェクトはやり切った達成感を得て、学生の顔つきも変わってきます。

**司会:** 実践的な学びが、学生の力になっているのですね。

**舟橋:** 学生自身の手で作ったものが、大学で利用されるというのは、他にない経験だと思います。卒業した後も、同窓会などで校舎に入った時に、自分たちが作ったものがまだ使われている、そんな思い出話ができたら素敵ですね。これからも、大学の課題を自分たちで解決してやろうという気概を持った学生と一緒に、様々な取り組みに挑戦していきたいです。

平野太一さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本熱処理技術協会中部支部講演大会にて Most Impressive Poster Awardを受賞しました

4月24日(水)に開催された日本熱処理技術協会(JSHT)中部支部第14回講演大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 宮本研究室 2年 平野太一さんがテーマ「イオン液体を用いたプラズマ浸漬焼入れの開発」の発表を行い、Most Impressive Poster Awardを受賞しました。この講演大会ではポスター発表で最も印象に残った発表者1名が受賞することとなっています。ポスター発表形式は第14回にして初ということで、第1号の受賞者となりました。



▲発表の様子



▲受賞式の様子

加藤涼介さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 軽金属学会で研究発表しました

5月10日(金)～12日(日)、名古屋大学東山キャンパスで開催された、軽金属学会の春期公演大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 1年 加藤涼介さんがポスターセッションによる研究発表を行いました。

タイトルは「Al-Mg-Si合金での等温時効熱処理における析出過程」で、名古屋大学との共同研究の成果を踏まえた新規現象を報告しました。



▲発表を行った加藤さん

板倉風雅さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本 Casting 学会 YFE大会で 講義および発表を行いました

5月26日(日)、日本 Casting 学会が主催する第183回全国講演大会で、YFE大会が開催されました。

第一部の Casting CAE勉強会では、工学部 機械工学科 前田安郭教授が若手技術者や学生に対し「 Casting CAEの現状と課題」について講義を行いました。第二部の Casting 方案勉強会発表会では、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 板倉風雅さんが発表を行いました。



▲発表を行った板倉さん

加藤大翔さん、近藤史崇さん、三輪建翔さん  
(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本 Casting 学会 第183回全国講演大会で 研究発表しました

5月25日(土)、26日(日)、日本 Casting 学会が主催する第183回全国講演大会が早稲田大学西早稲田キャンパスで開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 1年 加藤大翔さん、近藤史崇さん、三輪建翔さんが研究発表を行いました。

発表テーマは下記の通りです。

### ◆加藤さんのテーマ

「 Casting CAEの条件が Casting 欠陥の予測に及ぼす影響」

### ◆近藤さんのテーマ

「スクイズ圧縮で造型される生型砂試験片の動的挙動解析」

### ◆三輪さんのテーマ

「SPH粒子法を用いた充填シミュレーションにおける Casting 用フィルタの計算モデル」

前田研究室のHPはこちら

<https://yasuhiro-maeda.com/>



▲(左から)研究発表を行った三輪さん、加藤さん、近藤さん



辻篤志さん、渡邊静さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本熱処理技術協会 中部支部講演大会で発表しました

4月24日(水)、日本熱処理技術協会(JSHT)中部支部講演大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 辻篤志さん、渡邊静さんが、研究の内容や実験装置をポスターで説明しました。

日本熱処理技術協会(JSHT)中部支部では、工学部 機械工学科 田中浩司教授が支部長を務め、支部長補佐を同学科 宮本潤准教授が務めています。今年、ポスターセッションを新設し、学生が日頃取り組んでいる研究や、支部主催の熱処理コンテストを通して学んだことなど、幅広い内容を企業の方に説明しました。学生は企業の若手社員と交流ができ、進路選択の一助になりました。

発表テーマは以下の通りです。

### ◆辻さんのテーマ

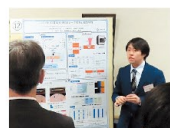
「Cu/Cu-Ni/Cu複合抵抗材のレーザ造形と電気特性」

### ◆渡邊さんのテーマ

「集光加熱によるAg 系接点材/Cu系基板接合への取り組み」

中部支部主催の熱処理コンテストのHPはこちら

<https://jsht.or.jp/chubu/netukon/>



▲発表する辻さん



▲発表する渡邊さん



林秀行さん(大学院 工学研究科 材料・環境工学専攻)

## 日本機械学会学術誌の年間アクセスランキングで2位になりました!

大学院 工学研究科 博士後期課程 材料・環境工学専攻 3年 林秀行さんの、日本機械学会に昨年投稿した論文「サイクロイダル遊星歯車減速機の開発」が、2023年の論文アクセスランキングで2位となりました。

理工系の学会で日本最大の会員数を擁する日本機械学会では毎年、一年間の論文アクセス数を集計し、トップ10を公表しています。学会には毎年200～300編の研究論文が投稿されますが、ランキングではその年に投稿された論文だけでなく、これまでに投稿された過去の論文すべてが対象となります。従って、トップ10の中には10年前の論文もあります。

林さんの論文は昨年の3月末に公開されたもので、一年たたずに1000件を優に超えるアクセス数を獲得しての2位という快挙を成し遂げました。

この予想だにしない快挙に林さん本人もさることながら、共著者の工学部 機械システム工学科 大嶋和彦教授と尾形和哉教授も驚きを隠せないと述べています。



▲林さんの開発したサイクロイダル遊星歯車減速機

林さんの研究対象である減速機は、複数の歯車を組み合わせて、高速回転するモータの回転速度を落とすとともに、トルクを増大させて十分な回転推進力を得る重要な工業製品です。林さんはスピログラフという知育玩具から発想を得て、減速のメカニズムを歯車の組み合わせでなく、サイクロイドという幾何曲線状の溝を彫った円盤で実現するという、まったく新しい発想に基づいた減速機を考案しました。十分な減速比を確保した上で減速機の小形化・薄型化を実現することができ、工業的有用性の高いもので、この開発研究の論文文化に先立つ学会発表でも、聴講者の関心が非常に高く、活発な質疑応答が交わされていました。

アクセスランキングは論文の内容の良否を量るものではありませんが、多くの研究者や技術者の関心を集める興味深い研究の証であることに違いはありません。林さんは今回の快挙について「多くの方々に私の論文を読んでいただいたことを非常に光栄に感じています。日々の研究で行き詰まることも多々ありますが、本当に良い励みになりました。また、自分の論文が読んでいただいた方々の研究に少しでも参考になればたいへん嬉しいです。」と語っています。

## 小林宥貴さん、中野創大さん(大学院 工学研究科 建築学専攻) ミラノ工科大学への留学報告会を開催しました!

6月27日(木)、イタリアのミラノ工科大学に留学した、大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 2年 小林宥貴さんと中野創大さんによる留学報告会が開催されました。



小林さんと中野さんは、ミラノ工科大学と本学 ▲留学した中野さん(左)、小林さん(右)(大学院 建築学専攻)との間で締結した「学生交換留学に関する協定書」に基づき、2023年9月から半年間、ミラノ工科大学大学院に留学生として在籍しました。現地では撮影した写真を使いながら、授業内容や生活だけでなく多くの建築遺産などを実際に見学した様子が報告されました。報告会には教職員・学生が参加し、質問も多数寄せられました。この留学制度については、休学することなく本学大学院に在籍したままミラノ工科大学の正規の授業を履修することができ、修得した科目は、本学の授業科目に読み替えて認定されることも可能です。

小林さんはインタビューで、「ミラノ工科大学で学んだことは、バックグラウンドの違う人々と協働する上では失敗を恐れずにコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大切だということです。みんなも英語が第一言語ではない、細かいことを気にして動けないよりも、とにかく行動し歩み寄る姿勢を見せることの大切さを学びました。留学してよかったことは、意外と自分の限界を決めているのは自分や周辺環境であることを実感できたことです。ビザ申請もイタリアでの生活も、留学前は不安でしたが、やってみるとなんとかなることばかりで、留学前に想定していた悪いことは案外起こらないということを実感しました。」と語っています。

中野さんはインタビューで、「ミラノ工科大学で学んだことは、環境負荷を考慮した建築デザインです。大同大学では個性的で自由なデザインで設計していましたが、ミラノでは実現性の高いデザインを学びました。特に、環境解析などの実務的なソフトウェアを習得しました。これによって、帰国後には、設計への解像度が上がり、より現実的な提案ができるようになりました。留学して良かったことは、自分に自信がついたことです。留学先では、異なる言語や文化を乗り越えて、半年間を楽しく過ごすことができました。この経験は、特にコミュニケーション能力を向上させてくれました。その堂々とした姿勢は、帰国後の就職採用試験で面接官の方から、話しやすい、信頼できると、好印象をもたれて内定をいただくことができました。」と語っています。

## 神田直季さん、工藤清流さん(情報デザイン学科)

## 「ニッポンものづくりデザインアワード2023」で受賞しました!

情報学部 情報デザイン学科 舟橋研究室 3年 神田直季さん、工藤清流さんが「ニッポンものづくりデザインアワード2023」で奨励賞を受賞しました。



神田さんと工藤さんは、燠製鍋「Quattro Smoker」をデザインし、200件を超える応募作品から見事8件の受賞作品に選出されました。このアワードは、日本のモノづくり企業の技術を用いたアイデアを、全国の学生や29歳以下の社会人から募集し、「魅力あるデザイン」の商品化を目指す全国規模のコンペティションです。

▲受賞した工藤さん(左)、神田さん(右)

## 品村征哉さん(情報デザイン学科)

## 「なごや健康カレッジ」の案内パンフレットをデザインしました

11月15日(金)から6週間にわたり、毎週金曜日に開催された「なごや健康カレッジ」の参加募集パンフレットを情報学部 情報デザイン学科 3年 品村征哉さんがデザインしました。「なごや健康カレッジ」は名古屋市と本学が連携して、65歳以上を対象者として実施する健康づくりの講座で、毎年継続して開催しています。



## 都築佑翔さん、中嶋洋介さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻) 国際学会で発表を行いました

6月23日(日)~27日(木)、19回目となるアルミニウムの国際学会ICAA19(19th International Conference on Aluminum Alloys)がアメリカのジョージア州アトランタ市で開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 高田研究室 2年 都築佑翔さんと中嶋洋介さんがポスターセッションにて研究発表を行いました。このうち中嶋さんの発表は北海道大学、愛知工業大学との共同研究の成果です。



▲発表を行った都築さん(左)、中嶋さん(右)

また、この学会では名古屋大学から、大同大学、あいしんクロミウム光センサーとの共同研究成果が発表されました。この発表では、工学部 機械工学科 高田健教授、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2022年修了 佐野大和さん、同専攻 2023年修了 水野和也さんが連名となっています。

[学会のHPはこちら](https://icaa19.org/)

<https://icaa19.org/>



## 近藤史崇さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## The 16th World Congress on Computational Mechanicsで研究発表を行いました

7月21日(日)~26日(金)、The 16th World Congress on Computational Mechanics and 4th Pan American Congress on Computational Mechanicsが、カナダのバンクーバーで開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 1年 近藤史崇さんが研究発表を行いました。

発表テーマは以下の通りです。

### ◆近藤さんのテーマ

「Speeding up calculation time by specifying search range in squeeze compacting analysis using discrete elements with particle size distribution」



▲発表を行った近藤さん



16th WCCMの  
HPはこちら  
<https://www.wccm2024.org/>



前田研究室のHPは  
こちら  
<https://yasuhiro-maeda.com/>

## 福富友哉さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本鉄鋼協会の学生ポスターセッションで奨励賞を受賞しました

9月18日(水)~20日(金)、大阪大学で開催された、日本鉄鋼協会 第188回秋季講演大会 学生ポスターセッションの部において、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 1年 田中研究室 福富友哉さんが奨励賞を受賞しました。日本鉄鋼協会では、学術講演大会で多くの学生に発表機会を提供するため、学生ポスターセッションが行われます。今回は鉄鋼の各分野で合計80件ほどのポスターセッションが行われました。



▲表彰式の様子

福富さんは、「Cr-V鋼の累積加熱におけるγ+α域加熱が炭化物析出に及ぼす影響」をテーマに報告。審査員の先生方との30分のディスカッションの後、学会参加者に2時間半にわたって説明しました。

山崎一也さん(大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻)

## 電気学会研究フォーラムで 優秀論文発表賞を受賞しました!

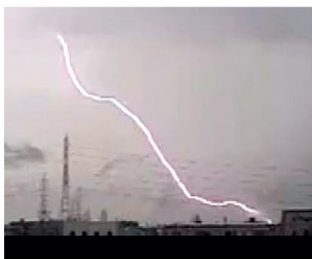
9月17日(火)、東桜会館で開催された、電気学会東海支部研究フォーラム「電力システムに対する雷・自然災害と環境問題に関する研究」で大学院工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 2年 植田研究室 山崎一也さんが優秀論文発表賞を受賞しました。

このフォーラムでは東海北陸地区で雷を研究している研究者や学生が集まり、それぞれの研究成果を発表します。

山崎さんの発表題目は「雷放電の放電経路に関する基礎研究」で、大同大学から撮影された斜めの放電経路を持つ雷放電について研究した結果の発表を行いました。このような雷放電は大変珍しく参加者から多くの質問コメントを受けました。



▲表彰式の様子



▲大同大学から撮影された雷放電

花木玲男さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 国際学会で研究論文を発表しました

9月11日(水)～15日(日)、ベトナム社会主義共和国ファンティエツト大学(Phan Thiet University)で開催されたThe 5th International Conference on Machining, Materials and Mechanical Technologies (IC3MT2024, Phan Thiet city, Vietnam)に、大学院工学研究科 修士課程 機械工学専攻 機械工学コース 萩野研究室 花木玲男さんが参加しました。花木さんは「Effect of cutting temperature to material deformation and residual stress after face milling」というタイトルで、英語で研究発表を行いました。



▲発表前の花木さん

松村修一郎さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 国際会議ISAPS2024にて 英語で発表しました!

9月23日(月・祝)～27日(金)、滋賀県の琵琶湖大津プリンスホテルで、プラズマ応用の国際会議ISAPS'24が開催されました。最終日には、大学院工学研究科 修士課程 機械工学専攻 松村修一郎さんが、指導教員の工学部 機械工学科 白石裕之教授との連名で英語で発表しました。

題目は「Response of Laser-supported Detonation Propagating through a Diatomic Gas by Periodic Laser Irradiation」で、内容はレーザー宇宙推進の駆動に不可欠な超音速現象(レーザーデトネーション)において、敢えて人工的な振幅を加えて数値解析的検討を行ったものです。



▲発表する松村さん

田村文乃さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本機械学会 2024年度年次大会で 研究発表を行いました

9月8日(日)～11日(水)に開催された、日本機械学会 2024年度年次大会で、大学院工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 篠原研究室 田村文乃さんが発表を行いました。

論文タイトルは「機械的位置エネルギーに関する教材・玩具化を目指した紙製空中ブランコロボットの開発」で、紙製の空中ブランコロボットを教育教材や玩具として開発し、力学や回転トルク、位置エネルギーの理解を深めることを目指した研究です。

特に、初心者がこのロボットを操作する際の課題である「ブランコ乗り移り成功率の低下」に焦点を当て、その原因と改善策を探りました。初心者は、ロボットをブランコに掛ける際の初期姿勢が熟練者とは異なり、ロボットの重心位置がブランコの回転軸から外れることが多いと判明しました。このズレが原因で、ブランコの回転速度やロボットにかかる重力の力が増加し、ロボットの進行を妨げる結果、成功率が低下します。改善策として、初心者がロボットを安定させやすくするために「スタート台」を開発しました。この台を使用することで、ロボットの重心位置が適切に保たれ、初心者でも成功率が向上することが確認されました(40%から67%に上昇)。

発表後は「改良を行うにあたって自分の気付きから着想を得た点はどこか」、実施者ではなくロボットの個性差は成功率に影響を与えるか」など活発な議論が行われました。今後は、さらなる改良を進め、誰でも安定した操作ができるようにして、教育現場やイベントで活用していく予定です。

日本機械学会のHPはこちら

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsme2024>



▲発表する田村さん



長谷川凱士さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 金属学会にて研究成果を発表しました

9月19日(木)、大学院工学研究科 修士課程 機械工学専攻 1年 高田研究室 長谷川凱士さんが、大阪大学豊中キャンパスで開催された、日本金属学会第175回大会のポスターセッションで研究成果を発表しました。

また、この学会での口頭発表では、高田研究室、名古屋大学工学部・未来研、あいちシンクロtron光センターとの共同研究内容が名古屋大学 齊藤元貴先生から発表されました。この本発表では、工学部 機械工学科 高田健教授、大学院工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 鳥越翔真さん、同専攻 2023年修了 佐野大和さん、同専攻 2024年修了 水野和也さんが本学側の連名者となっています。

◆長谷川さんの発表テーマ

「Al-Mg-Si合金中の過時効析出物の形態変化」

◆齊藤先生の発表テーマ

「STEM-EDS強度の相関図を用いたAl合金中の微小な時効生成物の抽出」



▲発表を行った長谷川さん

浦口拓也さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## 日本流体力学会2024で発表しました!

9月25日(水)～27日(金)、宮城県仙台市で開催された、日本流体力学会年会2024で、大学院工学研究科 修士課程 機械工学専攻 1年 浦口拓也さんと、工学部 機械工学科 坪井涼教授が発表を行いました。

題目は「着氷現象における固体表面への単一液滴衝突挙動の疑似3次元解析」で、この研究は大同大学とJAXA、金沢工業大学、東京理科大学との共同研究です。

発表者は、浦口さん、坪井教授、JAXAの鈴木正也さん、水野拓哉さん、金沢工業大学の福岡功二さん、東京理科大学の山本誠さんで行いました。

日本流体力学会 年会2024の詳細はこちら

<https://www2.nagare.or.jp/nenkai2024/>



▲発表した浦口さん



## 卒業生インタビュー

Graduates of Daido University



大同特殊鋼株式会社

原田 一沙

2017年3月

情報学部 総合情報学科卒業

2024年12月現在

大同特殊鋼株式会社 入社8年目

## —— 現在勤務している企業、チームを紹介してください。

大同特殊鋼株式会社は、世界最大級の特種鋼専門メーカーであり、自動車や電車、情報機器や医療現場など様々な場所で活躍する製品を作っている企業です。

チームは、ハンドボールリーグで最多優勝回数を誇る歴史あるチームです。創部以来変わらぬ伝統「一流プレーヤーである前に、一企業人であれ」というアマチュア精神を受け継ぎ、日本一を目指しています。

## —— 現在従事している仕事内容を教えてください。

工場において製品の生産を計画、管理をする生産管理室で働いています。

## —— ハンドボール選手としての活動について教えてください。

24-25シーズンのキャプテンを務めています。伝統あるチームのキャプテンとなりプレッシャーや責任感がありますが、大学時代もキャプテンを務めていたので、その経験を活かしています。

毎日就業後での練習ですが、目標の日本一になるために苦しい練習もチーム全員で鼓舞しながらトレーニングに励んでいます。



## —— 社業と選手活動の両立で心がけていることを教えてください。

フェニックスの基本理念として、アマチュアイズムを貫き、「文武両道」に取り組む集団でなければいけないので、仕事ができる・できない関係なしにまずは取り組む姿勢を評価してもらえるよう何事も一生懸命取り組むよう心がけています。また、ハンドボールしかできないと思われぬよう率先して行動するよう心がけています。

## —— その企業に就職したきっかけ、経緯を教えてください。

小学生の時に始めたハンドボールスクールが現在所属している大同特殊鋼ハンドボール部の下部組織チームでした。縁もありフェニックス東海・大同高校・大同大学と大同特殊鋼の組織（フェニックスファミリー）でハンドボールを続けてきました。社会人（実業団）でもハンドボールを続けていきたいと思い、どこで続けていけばお世話になった方々に恩返しができるのかを考えたときに大同特殊鋼株式会社しかないと思い、入社を決めました。

## —— 大学での学びはどのように活きていますか？

学生時代、特にハンドボールでは、PDCAサイクルを常に意識付けされてきました。自分のなりた姿から、自分には何が足りないのか課題を見つけ出しその課題解決に向けて、どのような練習を積んでいく必要があるか、どのように取り組めば目標に近づくことができるかを学んできました。そのため、今でも課題に直面した際には、どうすればさらに成長できるかを常に考え、行動を選択しています。

## —— これからの目標を教えてください。

周りから信頼感を持ってもらえるような存在になりたいと思っています。ハンドボールでは、現役生活も長くできないので一日一日を無駄にせず目標である日本一を取って現役生活を締めくくりたいと思っています。

## —— 在学生に一言お願いします。

人生で一度しかない学生時代、学業・アルバイトで色々なことに積極的にチャレンジしていきましょう！後悔してからでは時間は戻りません。悔いのないよう楽しんでください！



## 企業 DATA

## 大同特殊鋼株式会社

〒461-8581

名古屋市中区東桜一丁目1番10号

創 業 1916年(大正5年)8月19日

設 立 1950年(昭和25年)2月1日

代 表 者 清水 哲也

資 本 金 371億7,246万4,289 円

従業員数 11,941名(連結) 3,273名(単独)

事業内容 特殊鋼鋼材・機能材料・磁性材料、  
自動車部品・産業機械部品、  
エンジニアリング、流通・サービス

鈴木佳那子さん(2023年度卒業 建築学科 建築専攻)

## 『Nagoya Archi Fes 2024 中部卒業設計展』で入賞しました!

3月12日(火)、13日(水)、吹上ホールで開催された『Nagoya Archi Fes 2024 中部卒業設計展』で、工学部 建築学科 建築専攻 宇野研究室 卒業生 鈴木佳那子さん(現:大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 1年)の作品が入賞しました。

Nagoya Archi Fes 2024 中部卒業設計展(通称NAF)は、今年度で11年目を迎える中部地方の建築系大学からの応募を対象とした卒業設計展で、今年度は約100名の中部の建築学生が卒業設計作品を出展しました。1日目の審査では中部圏で活躍される方が審査員となりそれぞれの個人賞を選出、2日目の審査では様々な地域で活躍される建築家の方が審査員となり、ファイナリスト選考で選ばれた作品を公開審査し、入賞作品を選出しました。

鈴木さんの「家族の壁〜互いの理想的な距離を体現する壁による自邸リノベーション〜」は、1日目の審査で植村康平賞、2日目の審査で島田陽賞に選出されました。

Nagoya Archi Fes 2024のHPはこちら

<https://www.nagoya-archi-fes-hp.com/>



▲展示の様子



▲鈴木さんの作品「家族の壁」



### 渡邊慎一学長

## NHK「サタデーウオッチ9」で運動会の開催時期と熱中症についてコメントしました

5月11日(土)に放送されたNHK総合「サタデーウオッチ9」(毎週土曜午後9時放送)に、渡邊慎一学長(専門:建築環境工学)が出演しました。

放送では、運動会の開催される最多日が5月である都道府県が全国で24都県に上ることを明らかにした渡邊学長の調査結果が紹介された他、5月に30℃を超える真夏日が発生する昨今では、春に開催する運動会でも熱中症への注意が必要であると呼びかけられました。渡邊学長は熱中症対策について、「春先は暑さに慣れていない状況であることから、環境省の熱中症予防サイトで暑さ指数(WBGT)の予測値を確認することが熱中症対策の第一歩である」とコメントしました。

### 女子ハンドボール部

## 東海学生ハンドボール春季リーグで優勝しました

4月より開幕した2024年度東海学生ハンドボールリーグ戦において、女子ハンドボール部が優勝しました。今回の優勝は2015年春季リーグ以来、2度目の快挙となります。

女子ハンドボール部は順調に緒戦を勝利していくと、6戦目に中京大学との全勝対決を迎え、激戦の末、見事に勝利。その勢いそのまま最終戦も勝ち切ると、全勝優勝を成し遂げました。また、表彰では、優秀選手賞に情報学部 総合情報学科 4年 近藤百花子さん、ベストセブンに同学科 4年 吉田妃那さん、同学科 3年 堀江未来さんが選出されました。

中日スポーツのWebサイトにも掲載されています。

[https://www.chunichi.co.jp/article/902797?rct=othersports&ref=spo\\_top\\_pc\\_listnews](https://www.chunichi.co.jp/article/902797?rct=othersports&ref=spo_top_pc_listnews)



▲学園理事に優勝を報告する齊藤監督(左から2番目)と選手たち(中央2名)



## 『第29回JIA東海学生卒業設計コンクール2024』で入賞・入選しました!

4月27日(土)、公益社団法人日本建築家協会東海支部が主催する「第29回JIA東海学生卒業設計コンクール2024」の二次審査会が行われ、建築学部建築学科から5名の卒業生が入賞・入選する結果となりました。

最終審査に進んだ10名のうち半数を本学の卒業生が占めるという快挙を成し遂げました。

このコンクールは、「実社会で活躍する建築家と建築を学ぶ学生との交流の場を作り、広く建築家の仕事を理解する機会」とするとともに、「優れた後進の育成」をめざして毎年開催されており、今年で第29回を迎えました。二次審査会では、学外でのプレゼンテーションや建築家との質疑応答などを通じ、更なる学びの機会を得ることができました。

なお、金賞を受賞した竹内さんの卒業設計作品は、6月29日(土)に開催された「JIA全国学生卒業設計コンクール2024」へ進出しました。

受賞者は以下の通りです。

### ◆金賞 竹内もも香さん(2023年度卒業 工学部 建築学科 船橋研究室)

「75分の余白〜子どもの帰属意識を誘発する食空間の提案〜」

### ◆入選 鈴木遼さん(2023年度卒業 工学部 建築学科 船橋研究室)

「郡上八幡の因縁果報〜風土が織成す下屋道の小景〜」

### ◆入選 石橋千郷さん(2023年度卒業 工学部 建築学科 船橋研究室)

「コの作法」

### ◆入選 岡本歩睦さん

(大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 武藤研究室 1年)

「員弁の地霊〜過去、の地霊と未来の地霊に倣う〜」

### ◆入選 鈴木佳那子さん

(大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 宇野研究室 1年)

「家族の壁〜互いの理想的な距離を体現する壁による自邸リノベーション〜」



▲集合写真

写真提供:公益社団法人日本建築家協会東海支部



▲講評風景の様子

### 『第29回JIA東海学生卒業設計コンクール2024』の最終結果はこちら

<http://www.jia-tokai.org/info/1669>

### 『JIA全国学生卒業設計コンクール2024』の詳細はこちら

<https://www.jia.or.jp/jia-official/cms/wp-content/uploads/2024/05/5595b598c5824eea653ce05afd75f5cc.pdf>



### 大同大学同窓会

## 同窓会奨学金給付の取り組みが中日新聞に掲載されました

6月15日(土)発行の中日新聞県内版に、同窓会創立60周年記念奨学生採用の取り組みが紹介されました。

この制度は同窓会創立60周年記念事業の一環として、大学院修士課程進学者を対象に授業料および施設設備費の全額を給付(返還不要)する制度です。

学生の経済的支援だけでなく同窓会活動の活性化を目的として、2025年度以降の入学予定者についてもこの制度を継続する予定です。



▲同窓会シンボルキャラクター GOBYS

石橋千郷さん、竹内もも香さん、川合海聖さん(2023年度卒業 建築学科 建築専攻)

## 公益財団法人乃村文化財団2024年表彰事業

### 『学生卒業設計・制作 NCF空間ディスプレイアワード』で入賞しました!

7月2日(火)、公益財団法人乃村文化財団が主催する、2024年 表彰事業『学生卒業設計・制作 NCF空間ディスプレイアワード』の表彰状授与式が行われ、本学の卒業生3名が入賞を果たしました。

工学部 建築学科 建築専攻 船橋研究室 卒業生 石橋千郷さんの作品「コの作法」が優秀賞を、同専攻 同研究室 卒業生 竹内もも香さんの作品「75分の余白 一子どもの帰属意識を誘発する食空間の提案」が同じく優秀賞を、同専攻 宇野研究室 卒業生 川合海聖さん(現:大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 1年)の作品「駐車場を巡る建築を巡る 一駐車場と建築の関係性を再考したロードサイド建築」が奨励賞を受賞しました。

乃村文化財団は、空間デザイン・ディスプレイデザイン・環境デザイン・建築デザイン・情報デザインなど、ディスプレイに関わる領域全体を広く空間ディスプレイ分野と捉え、リアルからバーチャルへと未来に向かって進化する新たなディスプレイを見据えた優れた卒業設計・制作を評価し、その所属大学等の空間ディスプレイ分野における活動を顕彰することによって、空間ディスプレイによる社会貢献の可能性を広げることを表彰事業の目的としています。

NCF空間ディスプレイアワードは、日本全国に所在する大学の卒業設計・制作作品において、ディスプレイが、人と人、人と物、人と情報をつなぎ豊かな価値を創造する空間を媒体としたコミュニケーション手段のひとつであることを、具体的な空間デザインにおいて具現化していることを

評価・表彰するために毎年開催されています。2024年は全国51の応募作品の中から、優秀賞5件、奨励賞4件が表彰されました。

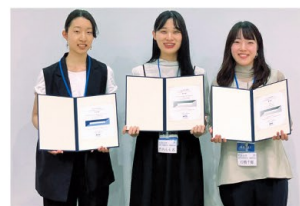
乃村文化財団 学生卒業設計・制作

NCF空間ディスプレイアワード

<https://www.nomura-cf.jp/business/award/>

受賞作品はこちら

[https://www.nomura-cf.jp/business/award/award\\_result](https://www.nomura-cf.jp/business/award/award_result)



ダヴィデ・スカグリアさん

### 『近代建築 2024年8月号』に寄稿記事「私の見た日本 Vol.224」が掲載されました!

ミラノ工科大学大学院から交換留学生として来日していたダヴィデ・スカグリアさんの寄稿記事「私の見た日本 Vol.224」が、建築専門誌『近代建築 2024年8月号』に掲載されました。

連載「私の見た日本」は、日本に滞在している(または滞在していた)外国人の方から見た「日本」についての徒然文(建築・文化などと絡ませたもの)で、月刊『近代建築』にて毎月掲載されています。

ダヴィデ・スカグリアさんは、2022年9月~2023年8月までの1年間を本学で過ごし、同じく交換留学生のエドアルド・アヴェリノさんと共に修士論文「NAGOYA GREENWAY -Reimagining the network of rivers and parks in Nagoya-」を書き上げました。

日本各地の様々な場所を訪れ、名古屋を修士論文の研究対象とするなど、日本への愛情に満ちた素敵なコラムとなっています。『近代建築2024年8月号』(近代建築社)に掲載されておりますので、機会がありましたら是非お手にとってご覧ください。

『近代建築 2024年8月号』私の見た日本 Vol.224 / Davide Scagliaの記事はこちら

[http://www.kindaienchiku.co.jp/update/column/big/2024\\_08/watashinomita\\_224.pdf](http://www.kindaienchiku.co.jp/update/column/big/2024_08/watashinomita_224.pdf)

株式会社 近代建築社のサイトはこちら

<http://www.kindaienchiku.co.jp/>



### 大同大学奨励賞表彰式を行いました!

6月26日(水)、学長室で、大同大学奨励賞表彰式が執り行われました。

「令和5年度デザインパテントコンテスト」で、情報学部 情報デザイン学科 3年 杉明香里さんは日本弁理士会会長賞(上位7名)、同学科 木村日菜美さんと中川陽由さんは優秀賞(上位32名)を受賞しました。



「デザインパテントコンテスト」は、文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工場の所有権情報・研修館が共同主催する学生のみを対象とした全国規模のコンペティションです。「情報デザイン基礎実習D(担当:情報学部 情報デザイン学科 佐々木勝史教授、吉田充宏非常勤講師)」のドアノブ作品を出品しました。

今年度は全国の高校生、高等専門学校生、大学生から622件の応募があり、そのうち優秀な作品32件が受賞しました。杉さん、木村さん、中川さんの3名は研究活動において顕著な業績を収めたこと認められ、大同大学奨励賞を受賞しました。



▲杉さんの作品  
「Flower vase lever」



▲木村さんの作品「レバーハンドル」



▲中川さんの作品「SKELETONknob」

### 大同大学でエレクトロニクス実装学会のシンポジウム(MES2024)が開催されました

9月11日(水)~13日(金)、本学X棟で、エレクトロニクス実装学会 第34回マイクロエレクトロニクスシンポジウム(MES2024)が開催されました。

対面とリモートのハイブリッドで開催され、参加登録者数465名、本学への来場者は3日間で延べ722名でした。



▲特別講演を行う武藤理事長

本学の関係者としては、武藤大理事長から「企業経営と大学経営双方に携わって思うこと」の特別講演がありました。また交流会において、渡邊慎一学長から開催大学を代表しての挨拶がありました。なお、工学部 電気電子工学科 山田靖教授が、組織委員長を務めました。

## 大同大学同窓会ロゴマークデザインが決定しました!

卒業生、在学生から計34件の応募をいただき、執行委員会において審査のうえ、最優秀作品、優秀作品を決定しました。

**最優秀賞** 末永知子さん(卒業生)  
**優秀賞** 森川輝一さん(卒業生)  
**優秀賞** 神田直季さん(在学生)  
**優秀賞** 杉浦あやのさん(在学生)



▲大同大学同窓会ロゴマークデザイン(注)ロゴマークについては特許庁に商標出願しており、権利は一般社団法人大同大学同窓会に帰属します。

最優秀作品および優秀作品については、11月9日(土)に開催した大同大学同窓会60周年記念式典において、表彰式を執り行いました。

最優秀賞に選考された末永さんの作品は、マスコットキャラクターのGOBYと同様に「同窓会の顔」としてホームページ、会報誌、記念品等に使用させていただきます。

### 〈コンセプト〉

1994年に誕生したGOBYは同窓会に根強いイメージとして親しまれている背景から、魚の形を残しつつ「DAIDO UNIVERSITY」の頭文字DUをモチーフにマークをデザインしました。また魚の尾びれの3本柱は大同大学の3学部(工学部、情報学部、建築学部)をイメージし、社会を支える柱のような存在になってほしいという願いを込めています。様々な場面で活用しやすいようシンプルでスタイリッシュなデザインを意識しました。

## みんなでつくった"みなみくるとデジタルスタンプラリー"が開催され伊勢湾台風資料が展示されました

南区では、南区の魅力に興味を持ち楽しんでもらいながら愛着心向上を目指すため「南区魅力発見発信プロジェクト」を実施しています。プロジェクトの一環で、9月12日(木)～11月24日(日)に開催された「みんなでつくった"みなみくるとデジタルスタンプラリー"」に本学も参加しました。

本学のスタンプラリーチェックポイントは、A棟玄関ホールに設定されており、期間中は、日ごろ図書館に展示されている伊勢湾台風の資料の一部を、A棟玄関ロビーにパネル展示していました。

デジタルスタンプラリーに参加しつつ、台風など自然災害の恐ろしさを知り、防災についてあらためて考える機会となりました。大同大学大同高校の「愛と力の筏像」もスタンプラリーチェックポイントとなっていました。

詳細はこちら

<https://www.city.nagoya.jp/minami/page/0000157490.html>



## 大同大学奨励賞表彰式を行いました

9月24日(火)、本学学長室で大同大学奨励賞表彰式が執り行われました。

「ニッポンものづくりデザインアワード2023」にて、情報学部 情報デザイン学科 3年 神田直季さんと工藤清流さんが奨励賞(上位8名)を受賞しました。「ニッポンものづくりデザインアワード2023」は、日本のモノづくり企業の技術を用いた製品アイデアを全国の学生や29歳以下の社会人から募集し、「魅力のあるデザイン」を選定するとともに商品化を目指す全国規模のコンペティションです。

今年度は200件程度の作品応募があり、神田さんと工藤さんの作品である「Quattro Smoker」は上位8件に選ばれ奨励賞を受賞したことから神田さんと工藤さんの2名は研究活動において顕著な業績を収めたと認められ、大同大学奨励賞の受賞となりました。



▲大同大学奨励賞表彰式



▲二人がデザインした作品

## 2024年度前期学位記授与式を挙行了しました

9月20日(金)、本学で、2024年度前期学位記授与式を挙行了しました。渡邊慎一学長より一人ひとりに学位記が授与されました。

### 【卒業生内訳】

|      |           |    |
|------|-----------|----|
| 工学部  | 機械システム工学科 | 5名 |
| 建築学部 | 建築学科 建築専攻 | 1名 |
| 情報学部 | 情報システム学科  | 2名 |



▲学位記授与式の様子

## 金沢工業大学×愛知工業大学×中部大学×大同大学 4大学合同企画

### 『仕事体験ツアー in 富山』を開催しました!

8月29日(木)、30日(金)、金沢工業大学、愛知工業大学、中部大学と合同で、富山県の企業において1泊2日の仕事体験ツアーを開催しました。

複数大学が合同で企画・運営するこの取り組みは珍しく、国内で他に例を見ない取り組みだと思われます。

当日は、日常使用している商品がどのように企画され、生産されているのかを



▲他大学学生との製品開発体験の様子

学びました。参加した学生は就業観・就職意識を高め、異なる大学の学生と一緒に製品開発体験に取り組むことで、異なる視点やスキルを学ぶことができました。

キャリアセンターでは、今後もこのような取り組みを積極的に実施していく予定です。

## 「ネオジム磁石」発明の佐川真人氏が大同大学特別客員教授に就任しました

「ネオジム磁石」の発明者で、大同特殊鋼株式会社顧問の佐川真人氏が9月24日(火)付で特別客員教授に就任しました。

佐川特別客員教授が発明したネオジム磁石は、高出力・高効率求められる電気自動車や風力発電機などのモータ、小型・軽量で強力な磁石が必要なロボットや自動化システム、スマートフォンや家電など様々な分野において製品の高性能化に貢献しています。

これらの功績で佐川特別客員教授はクイーンエリザベス工学賞や欧州発明家賞を受賞するなど、数々の国際的な賞を受賞しています。大同大学では、大同特殊鋼株式会社の支援により開設したモータ研究センターで、高効率モータの研究開発を行っており、佐川特別客員教授にはその助言を行っていただく予定です。なお、本学の図書館において「永久磁石～大同大学と大同特殊鋼 企業研究者の道」と題し、佐川特別客員教授の著書やネオジム磁石・レアアースに関する書籍と共にネオジム磁石体験コーナーを設置した企画展示を10月末まで実施していました。



▲(左から)武藤理事長、佐川氏、渡邊学長

### 【略歴】

佐川 真人(さがわ まさと) 大同大学 特別客員教授  
 1943年 8月3日生まれ、徳島県出身。  
 1972年 東北大学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)  
 1972年 富士通株式会社入社  
 1982年 住友特殊金属株式会社入社後、永久磁石「ネオジム磁石」を発明 NDFEB株式会社を設立  
 2016年 大同特殊鋼株式会社顧問  
 2022年 クイーンエリザベス工学賞  
 2024年 欧州発明家賞などを受賞

関連記事はこちら:

「佐川真人特別客員教授 欧州発明家賞受賞記念 図書館企画展示『永久磁石 大同大学と大同特殊鋼』が行われました」

[https://www.daido-news.jp/du\\_news/notice/5846.html](https://www.daido-news.jp/du_news/notice/5846.html)



## 伊勢湾台風65年市民防災の集いが開催されました!

9月28日(土)、本学で「伊勢湾台風65周年 市民防災の集い」が開催されました。来場者は700名程度で、伊勢湾台風のシンポジウムにも多くの来場者が参加しました。市民防災は、自然災害への意識を高めてもらうことを目的に5年ごとに開かれ、被災の様子などを紹介しています。

初めて出展した自動車図書館は、当時、被災地を巡回し伊勢湾台風を伝える児童書などの貸し出しを行ったりした映像が公開されました。

また、9月29日(日)発行の中日新聞朝刊市民版には、「伊勢湾台風65年市民防災の集い」の記事が掲載されました。

### NHKの記事はこちら

<https://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20240928/3000037749.html>



### 関連記事はこちら:

「大同高校教員が撮影した伊勢湾台風の記録映像が公開されました」／松木孝文教授

[https://www.daido-news.jp/du\\_news/teacher/5924.html](https://www.daido-news.jp/du_news/teacher/5924.html)



## ロボット研究部

## 第29回かわさきロボット競技大会で決勝トーナメントに勝ち上がり企業賞を受賞しました!

8月25日(日)に第29回かわさきロボット競技大会が行われ、ロボット研究部から3チームが出場し、うち2チームが企業賞である「カフェサウダーズ賞」と「川崎マリンロータリークラブ賞」を受賞しました。

かわさきロボット競技大会とは、ラジコンカーに武器となる脚・腕構造を付与したロボットによる異種格闘技戦で、1チーム4人で戦います。

「カフェサウダーズ賞」を受賞したのは、工学部機械システム工学科 2年 小柳陸さんをキャプテン(=ロボット操縦者)とする、同学科 3年 森有翔さん、同学部 機械工学科 1年 蟹江尚史さん、同学部 電気電子工学科 1年 伊藤海翔さんから成るチームです。初戦で機体トラブルに見舞われたものの辛勝し、その後チーム一丸で整備を行い、決勝トーナメントまで勝ち進むことができました。

「川崎マリンロータリークラブ賞」は、工学部機械システム工学科 3年 三宅正也さんをキャプテンとする、同学部 機械工学科 4年 松村恭祐さん、同学部 機械システム工学科 2年 本多航さん、同学科 1年 兒門晃さんから成るチームです。キャプテンである三宅さんは種々の大会で受賞歴があり、競合他校にもその名が知れ渡っているロボット研究部のエースで、その操縦技術にロボット研究部の部員も期待を膨らませていましたが、その期待に応え予選を勝ち上がりました。

本学のロボット研究部はこの大会の常連で、これまでに数々の賞を獲得していましたが、新型コロナウイルスの影響によって先輩から後輩への技術継承が困難となり、コロナ後の大会では書類審査に必要なロボットを製作することすらままなりません。

そんな現状を変えようと部員たちが奮起し、切磋琢磨しあって優れた機体を完成させ、3チームが大会に出場し、そのうちの2チームが入賞することができました。

今回の参加チームは72チームで、残念ながら3位までの入賞は逃したものの、協賛企業の推薦による企業賞を獲得することができました。

今大会は現在の部員全員にとって初めての経験で、出場できたこと自体が良い刺激となり、入賞できたことも含めて今後の活動につながるとても実りのある大会になりました。



▲カフェサウダーズ賞の受賞の様子



▲川崎マリンロータリークラブ賞の受賞の様子

## 建築学科 かおりデザイン専攻

## かおりデザイン専攻の紹介動画を撮影しました

2024年4月より建築学部 建築学科として新たなスタートを切ったかおりデザイン専攻の紹介動画を撮影しました。

光田恵専攻主任へのインタビュー、専攻に在籍する学生の実験・実習の様子を取材・撮影しました。

動画では専攻の学びの魅力や楽しそうに活動する学生の様子をお伝えしています。



▲紹介動画撮影風景

## 情報デザイン学科

## 2024年大学プロモーションビデオを掲載しました!

2024年大学プロモーションビデオが完成しました。大学プロモーションビデオは、情報学部 情報デザイン学科 富永研究室が製作しており、2024年度のPVは大学の学部・学科をミュージックビデオ調で紹介するものとなっています。このビデオは、企画、撮影、編集等全て学生の手によるものです。

下記URLから2024年版を含む、

歴代プロモーションビデオが視聴できます。

<https://www.daido-it.ac.jp/gallery/>



## 総合情報学科

## 小学生向けスポーツイベント「スポーツを楽しもう!! レッツジュニアスポーツ」を開催しました

7月24日(水)、大同大学石井記念体育館で、小学生向けスポーツイベント「スポーツを楽しもう!! レッツジュニアスポーツ」が開催されました。

このイベントは、大同大学と南区役所との包括連携協定に基づく共催事業として実施され、情報学部 総合情報学科の学生がポスター制作などの企画や当日の運営を行いました。36名の小学生が参加し、学生と一緒に、ハンドボール・バレーボール・サッカーを楽しみました。参加した小学生は、ハンドボールのゴールネットに設けられた目印に向かってシュートを打ち点数をチームで競い合ったり、バレーでは狙ったところにサーブを打って学生とハイタッチしたりして楽しんでいる様子でした。



▲サッカーを楽しむ小学生と総合情報学科の学生



▲バレーボールの様子

また、7月28日(日)発行の中日新聞朝刊市民版には、「スポーツを楽しもう!! レッツジュニアスポーツ」の取り組みが紹介されました。同学科 スポーツ情報コース 3年の授業の一環として、学生主体で企画・運営されていることや、参加した小学生の楽しんだ声が掲載されました。

## 建築学科 かおりデザイン専攻

# 高齢者はつつつ長寿推進事業にて 学生が講師を務めました

7月24日(水)、南区菊江コミュニティセンターで、高齢者はつつつ長寿推進事業の講師を建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻の学生9名が務めました。

高齢者はつつつ長寿推進事業は、高齢者の仲間づくりや自主活動・地域活動への参加促進を図り、介護予防を推進することを目的として、名古屋市南区社会福祉協議会が継続して行っています。当日は25名の方が参加し、かおりデザインに関する説明や嗅覚テストの後、フレグランスソルトづくりを体験しました。



▲当日の様子

## 機械工学科

# アルミニウムの研究紹介が 軽金属学会誌「軽金属」に掲載されました

アルミニウム合金を中心とした学会である軽金属学会の学会誌「軽金属」の7月号に、工学部 機械工学科の研究内容が掲載されました。この学会誌では軽金属学会東海支部特集として東海地区の大学と企業のアルミニウムを中心とした軽金属の研究開発が紹介されています。

各大学や企業からは特徴ある研究動向が掲載され、大同大学からは工学部 機械工学科 西脇武志教授と高田健教授の研究内容が紹介されました。西脇教授の塑性加工分野、高田教授の材料分野での直近の研究内容が掲載されています。

なお、昨年の「軽金属」には、アルミニウム製品を使用したオープンキャンパスの様子(高田教授、坪井涼教授、宮本潤准教授、萩野将広准教授の共同執筆)が掲載されており、それ以来の「軽金属」での大同大学 機械工学科の紹介となります。

## 7月号掲載内容はこちら

[https://www.jilm.or.jp/uploads\\_content/2024/07/7407mokuji.pdf](https://www.jilm.or.jp/uploads_content/2024/07/7407mokuji.pdf)



## 2023年、分類“はぐくむ”のオープンキャンパスの報告はこちら

[https://www.jilm.or.jp/uploads\\_content/2023/12/2023soumokuji.pdf](https://www.jilm.or.jp/uploads_content/2023/12/2023soumokuji.pdf)



## 建築学科 都市空間インフラ専攻

# 産学連携の一環で学生が考えた 持続可能なアスファルトを施工しました!

建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻の学生が自主的に学外活動等を行う『どかんクラブ』は、昭和土木株式会社と連携して、産廃・廃材の再利用による持続可能なアスファルトの開発を行っています。

学生達が考えたアスファルトが材料試験の基準をクリアしたため、学園の許可を得て学内の道路に施工しました。これからは新設したアスファルトの経年変化等を観察します。



▲舗装完了の様子



▲施工している様子

## 総合情報学科

# 教職員向けスポーツ教室 「DUスポーツ」を実施しました

7月19日(金)、石井記念体育館で、情報学部 総合情報学科主催で、教職員向けのスポーツ教室「DUスポーツ」が実施されました。

このイベントは総合情報学科の学生が、教職員の運動不足の解消、健康な生活習慣の獲得を目的として、企画したものです。大学教職員、高校教職員、学園関係者16名が参加しました。

参加者はストレッチや体幹トレーニング、ソフトバレー等のプログラムを学生とコミュニケーションを取りながら実施し、怪我なく運動を楽しみました。



▲体幹トレーニングの様子



▲ソフトバレーを楽しむ教職員

## 情報デザイン学科

# 洗車機のデザイン発表会を行いました

9月27日(金)、情報学部 情報デザイン学科とタケウチビューター株式会社との産学連携により行われている課外プロジェクトで洗車機デザインの発表会が行われました。

タケウチビューター株式会社は名古屋市港区に本社を置き、世界で初めて移動式ブラシ付門型自動洗車機を開発した会社です。門型洗車機累計販売台数は世界1位と認定されています。

このプロジェクトに参加した同学科の学生、3年 足立 蒼さん、田代大地さん、中川陽由さん、加藤碧さん、立松由大さん、山口真由さん、木本光希さん、田中翔さん、杉浦せらさん、鐸木涼我さん、田中翔大さん、松尾俊輔さん、山田陽菜美さん、2年 福手彩希さん、松井朱日里さん、松田天音さんの12名は、4つのグループに分かれ、1組2案ずつの洗車機デザインを発表しました。X棟の廊下に原寸大の門型洗車機(枠のみ)が設置された光景は圧巻でした。



2月から構想を開始した学生達は、これまでにタケウチビューター株式会社の担当者と打合せを重ねながらデザインを完成させました。

発表会にお越し頂いたタケウチビューター株式会社の担当者も「学生らしい斬新なデザインを目の当たりにしたり、洗車機に対する若い感性を感じ取ることができた。このようなイベントが実施できて良かった。」と講評されました。

このプロジェクトでは同学科の岡田心教授と桐山岳寛准教授が、プロジェクト全体のコーディネートを行いました。

## 情報デザイン学科

# 展示会「Pocket Adventure —君のこれから探査—」を開催しました

10月21日(月)～25日(金)、本学展示室で、情報学部 情報デザイン学科 桐山研究室と吉田建設株式会社との産学連携プロジェクトとして、「Pocket Adventure—君のこれから探査—」を開催しました。

このプロジェクトは、大学生の就職活動において重要な「就活の軸」の考え方を伝えることを目的に企画されました。展示で紹介する卒業生の生の声を通じて、職業選びのヒントを紹介します。

10月21日(月)には、展示室で卒業生トークイベントも実施しました。



## 建築学科 都市空間インフラ専攻

「地域の魅力発見ウォーキング」  
本学学生が発案企画しました！

建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻の学生が、大同大学が立地する名古屋市南区名南中学校区を対象に、地域の憩いの場や伊勢湾台風の遺構などを巡るウォーキングコースを企画し、9月14日(土)～10月13日(日)、名古屋鉄道CentXの『エリアdeフラットワーク』に公開されました。

## 情報デザイン学科

## 「夏季スツールづくり講座」を開催しました！

情報学部 情報デザイン学科が「夏季スツールづくり講座」を開催しました。

この講座は、前職がプロの木工家だった同学科 加藤慎輔技術員が製作指導を務め、数年前より定期開催しています。今回は、同学科 佐々木研究室 3年 大谷明弘さん、舟橋研究室 3年 梶井康生さん、神田直季さん、小嵐啓太さん、羽田翔さんが「夏季スツールづくり講座」に参加し、スツール(背もたれのない椅子)をデザイン・製作しました。完成したスツールは12月に学外で開催される家具のイベントで展示・発表する予定です。



▲(後列左から)大谷さん、小嵐さん、梶井さん、神田さん、羽田さん、前列が加藤技術員

## 建築学科・情報デザイン学科

ミラノ工科大学で開催された  
C-Scape合同講評会に参加しました！

9月27日(金)、ミラノ工科大学で『C-Scape2023 合同講評会』が開催され、建築学部 建築学科 建築専攻 鈴木彩良さん、西尾晟さん、森敷南姫さん、森元優実さん、同学科 インテリアデザイン専攻 松井凜さん、松下拓人さん、宮崎一輝さんの学生7名と、情報学部 情報デザイン学科 柴田陽介さん、中島瑞菜さん、中村海渡さん、山口紗葵さん、渡邊春那さんの学生5名が英語でのプレゼンテーションに臨みました。

C-Scapeは、大同大学とミラノ工科大学の学生(建築・プロダクトデザイン)が合同で共通の課題に取り組む国際交流授業です。

2011年にはマルタ大学(マルタ共和国)、2012年には名古屋大学(日本)、2023年には北京建築大学(中国)が参加するなど、国際色豊かな授業として発展を遂げています。この授業における合同講評会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止していましたが、約5年ぶりにミラノ工科大学で再開するに至りました。

当日は、本学教員によるC-Scape2018～2022年の振り返りから始まり、2018年度の課題敷地となった岐阜県加茂郡白川町の紹介やC-Scape2024の課題説明などを経て、最後に両校の学生のプレゼンテーションが行われました。

今回の研修旅行に参加した12名の学生全員が、80名の聴衆の前に英語でのプレゼンテーションに挑み、自身の提案について熱の入った説明を行いました。ミラノ工科大学の教員や学生からは空間性や設計主旨に対する高い評価をいただき、本学学生にとっても非常に貴重な機会となったと感じています。

これを機に両校間での交流をさらに活性化させていくことを約束し、合同講評会の幕を閉じました。

なお、現在ミラノ工科大学に交換留学生として渡航している2人の大学院生も本講評会に参加し、ミラノでの生活や学習の実情について話を聞かせてくれました。半年間の留学を経て、2人の大きく成長した姿を目にできる日を楽しみにしています。



## 宮本潤示准教授(機械工学科)

日本熱処理技術協会より  
技術精励賞を受賞しました

5月27日(月)、東京工業大学で開催された、一般社団法人日本熱処理技術協会第97回講演大会で授賞式が行われ、工学部 機械工学科 宮本潤示准教授が技術精励賞を受賞しました。

この賞は正会員および維持会員企業に所属する熱処理業務に15年以上携わった技術者で、熱処理に関する技術の向上、改善、技術管理、品質管理、省資源、省力化の推進、技術者への教育指導などに精励された者数名に与えられる賞です。



▲賞状とトロフィー

▲受賞式の様子

## 前田安郭教授(機械工学科)

## 日本鑄造工学会・論文賞を受賞しました

5月25日(土)、公益社団法人日本鑄造工学会の第183回全国講演大会&総会が開催され、総会後の表彰式で、工学部 機械工学科 前田安郭教授らが投稿した「生型砂とRCS、生型砂のコンパクタビリティの違いがブロー造型挙動に及ぼす影響」が論文賞を受賞しました。

この論文の内容は、前田研究室に所属していた条隆千穂さん(2021年度修了 大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻、現在:株式会社ヤマキ)、安江拓哉さん(2020年度修了 大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻修了、現在:旭メタルズ株式会社)、竹川麻衣子さん(2021年度卒業 工学部 機械工学科、現在:株式会社半谷製作所)と、大同特殊鋼の堀亜由美さんの共同研究の成果報告の1つです。26日(日)には前田教授が受賞者講演を行いました。



▲授賞式の様子



日本鑄造工学会のHP  
(令和6年度表彰者)はこちら

<https://jfs.or.jp/overview/award-winner/>

前田研究室のHPはこちら

<https://yasuhiro-maeda.com/>



## 鷺見哲也教授(建築学科 都市空間インフラ専攻)

名古屋市南区総合水防訓練で  
講演しました

5月26日(日)、本学と名古屋市南区の連携・協力事業の一つとして「令和6年度名古屋市南区総合水防訓練」が、笠東小学校で行われました。

この訓練の防災講演講師として 建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻 鷺見哲也教授が「南区の風水害の危険について。～豪雨・高潮・津波～この地域は?」と題して、約40分間講演しました。鷺見教授は講演の中で、南区民の皆さんに南区の地図・写真を交えながら、具体的にハザードマップの見方、水防への考え方などを説明しました。南区民の皆さんの水防への意識がさらに高まった様子でした。



▲講演の様子



▲講演する鷺見教授

中村裕哲准教授(総合情報学科)

## 日本貿易学会 第63回全国大会で報告しました

5月25日(土)、26日(日)、兵庫県にある関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで、「日本貿易学会(JAFTAB) 第63回全国大会」が開催されました。

JAFTABは、1961(昭和36)年7月1日に設立されたグローバルビジネス研究のパイオニア的存在であり、長い歴史を誇ります。

今回の大会の統一テーマは「日韓貿易のトレンドと今後の展望」で、日本と韓国の貿易構造、社会構造、さらには世界の貿易の方向性を考えるうえで非常に重要なテーマが議論されました。

情報学部 総合情報学科 中村裕哲准教授は、「ソニーの国際戦略提携とクロスボーダー M&Aの変遷」と題して、40年間にわたるソニーの外国市場参入戦略に関する研究報告を行いました。具体的には、記事データを対象にテキストマイニングを用い、戦略提携(提携、合併)とM&Aの変遷を明らかにしたものです。このセッションの司会は拓殖大学 日野道啓教授が務め、コメントは兵庫県立大学大学院 内田康郎教授が担当されました。

日本貿易学会の全国大会HPはこちら

<https://jaftab.org/?p=3277>



西脇武志教授(機械工学科)

## 2024年度(第59回)日本塑性加工学会の論文賞を受賞しました!

工学部 機械工学科 西脇武志教授が、日本塑性加工学会の2024年度(第59回)論文賞を受賞し、5月15日(水)~17日(金)の2024年度塑性加工春季講演会会期中に行われた贈賞式に出席しました。



▲贈賞式の様子

受賞した論文の情報は下記の通りです。

タイトル:『底面集合組織の形成を抑制したAZ31Bマグネシウム合金材の室温深絞り成形性に及ぼすプロセス因子の影響』

論文誌:『塑性と加工』

著者 千野靖正、黄新勝、斎藤尚文、西脇武志、毛利猛

田中浩司教授(機械工学科)

## 一般社団法人日本熱処理技術協会の技術賞(粉生賞)を受賞しました!

5月27日(月)、28日(火)、東京工業大学で開催された第97回講演大会で、一般社団法人日本熱処理技術協会の2023年度の技術賞を、工学部 機械工学科 田中浩司教授が受賞しました。

受賞した題目は「鉄鋼の相変態および炭化物成長のモデリングと組織制御への応用」で、詳細は6月末発行の会員誌「熱処理」3号に掲載されました。



▲受賞した田中教授

田中教授は、2005年頃から機械構造用鋼の浸炭や炭化物に関する速度論的研究を始めました。折しも高温長時間を必要とする熱処理の省エネ、迅速化、そしてインライン化が叫ばれた時代であり、減圧下でHCガスから炭素を直接浸入させる真空浸炭が社会的にも重要なキーワードとなっていました。田中教授は積極的に産学連携研究を行い、炭素拡散場で炭化物が成長・固溶するモデルを開発し、ガスのON/OFFを繰り返す複雑な浸炭パターンで処理後の材質を予測しました。それらの功績が認められ、今回の受賞に繋がりました。

2023年度(令和5年度)日本熱処理技術協会  
協会賞受賞者はこちら

<https://jsht.or.jp/wp-content/uploads/2024/03/2023Award.pdf>



吹田和嗣教授(機械システム工学科)

## 自動化と安全の国際シンポジウム SIAS2024で講演しました

6月11日(火)~14日(金)、フィンランドで開催された自動化と安全の国際シンポジウムSIAS 2024で、工学部 機械システム工学科 吹田和嗣教授が、ロボティクスにおける日本側の活動を示し、海外機関・知見者との連携を強化することを目的に講演しました。



▲講演者の方々と吹田教授(中央)

吹田教授は講演内で、サービスロボット運用規格(ISO31101)に準拠した世界で初めてとなる適用事例を紹介。また、人の行動分析を踏まえた人とロボットコミュニケーションとして「安心停止」の提案を行いました。欧州では日本が先行する人を中心としたモノづくり技術に関心が高まりつつあり、活発な意見交換がされました。

SIAS2024のHPはこちら

<https://www.automaatioseura.fi/sias2024/>



山田靖教授(電気電子工学科)

## よこはま高度実装技術コンソーシアムのセミナーで講師を務めました

8月2日(金)、よこはま高度実装技術コンソーシアム(YJC)第57回実装技術セミナー「WBG/パワーエレクトロニクス社会実装の現状、課題と展望」で、工学部 電気電子工学科 山田靖教授が講師を務めました。

山田教授が担当したのは、「パワー半導体実装用接合技術と高温動作モジュール」で、前半ではパワー半導体を基板などに接合する材料の物性値取得や評価法を説明し、後半ではそれを用いて250℃の高温動作を可能としたモジュール構造の解説をしました。なお、Zoomを用いたWebセミナーで開催されました。

セミナーの詳細はこちら

<https://www.y-jisso.org/2024/06/10>



吹田和嗣教授(機械システム工学科)

## 日本機械学会2024年度年次大会で登壇しました

9月10日(火)、愛媛大学と日本工業大学で開催された日本機械学会2024年度年次大会で、工学部 機械システム工学科 吹田和嗣教授が登壇しました。

吹田教授が登壇するプログラムは、「機械と情報通信の融合で実現する人間中心の未来社会」で、「人を中心としたロボットとの協働・協調システムとその社会実装」をテーマに講演しました。

概要:科学技術・イノベーション基本計画では、目指す社会(Society 5.0)を国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会」および「一人ひとりの多様な幸せ(well-being)が実現できる社会」としている。このためには、人間の生活空間と情報空間を融合し、その中から安全と安心を基盤とした新たな価値を創出することが求められている。そこで今回は機械と情報通信の融合領域として、人と機械がコミュニケーションを取り合って安全・安心で快適な生活や作業を実現するための新技術を紹介する。またその基盤となるプラットフォームや、適用例についても紹介する。

日本機械学会2024年度年次大会の詳細はこちら

[https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/jsme2024/content/public\\_forum](https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/jsme2024/content/public_forum)



吹田和嗣教授(機械システム工学科)

## 日本機械学会主催 機械の日・機械週間関連事業で講演しました

8月2日(金)、トヨタ産業技術記念館で開催された、日本機械学会が主催する「機械の日・機械週間関連事業」で、工学部 機械システム工学科 吹田和嗣教授が講師を務めました。

講演タイトルは「産業用ロボットの安全を実現した基盤技術-MK1234の紹介(産業・化学機械と安全部門 企画)」です。

### 【講演内容】

日本機械学会では産業機械、化学機械に必須である機械安全に関する学術面からの研究・提言、産業界における実践・研究など、機械安全のあるべき姿を追求している。産業用ロボットは日本を代表する工業製品であり、今後の労働人口減少に向けてモノづくり、さらには今後のサービス分野での活躍に大きな期待が寄せられている。自動車におけるモノづくりにおいて、ロボットの安全システムはどのように進化し、グローバル生産にいかに関与されてきたかを振り返る。モノづくり、特に自動車生産のグローバル化。ロボティクスにおける安全技術と技術史の視点で今回のセミナーを企画した。

### イベントの詳細はこちら

<https://www.jsme.or.jp/event/24-101/>



服部佳晋教授、小島崇教授(電気電子工学科)

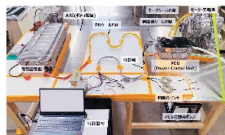
## 「車載システムEMCコンソーシアム」が開催されました

9月18日(水)、大同大学で、「名古屋工業大学と大同大学との連携・協力に関する基本協定書」に基づいて設置された「車載システムEMC※1コンソーシアム」の中の2ワーキンググループ(WG)、第1回「パワーエレクトロニクスシステムWG、自動車および車載機器EMC設計WG(合同開催)」を開催し、コンソーシアムメンバーの企業・大学から約30名が参加しました。

パワーエレクトロニクスシステムWGは、工学部 電気電子工学科 服部佳晋教授、小島崇教授がリーダー、メンバーとして活動しています。今回、学内にHEV※2のインバータ、モータ、電池からなるパワーエレクトロニクスシステムの電磁ノイズ評価ベンチを構築しました。その評価ベンチを見学頂き、進捗報告を行いました。いずれも予定時間をオーバーするほど、活発な議論がされました。報告会の後は、14階のラウンジで懇親会を開催し、和やかな雰囲気のもと、メンバー間の親交を深めました。



▲パワーエレクトロニクスWGの進捗報告会の様子



▲構築した電磁ノイズ評価ベンチ

※1 Electromagnetic Compatibilityの略で、電気機器が発する電磁波を、周囲の機器に影響を与えず、また他からの電磁波の影響を受けずに動作する性能のこと。

※2 Hybrid Electric Vehicleの略。

◀(左から)コンソーシアム代表 名古屋工業大学 和田修己客員教授、EMC評価分科会リーダー 名古屋工業大学 市川浩司特任教授、パワーエレクトロニクスWG 大同大学 服部教授、小島教授



山田靖教授(電気電子工学科)

## 専門図書の執筆をしました

工学部 電気電子工学科 山田靖教授が、技術情報協会の専門図書「次世代パワーデバイスに向けた高耐熱・高放熱材料の開発と熱対策」の執筆をしました。

山田教授が執筆したのは、第3章第8節の「Cuナノ粒子を用いた高耐熱接合技術と特性評価」です。前半ではパワー半導体実装に用いるCuナノ粒子接合について、熱特性や信頼性について解説しました。後半では、接合材料の特性評価法について述べました。



光田恵教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

## 日本アロマ環境協会機関紙の記事を監修しました

9月25日(水)発行の、日本アロマ環境協会機関紙「AEAJ」で、建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻 光田恵教授が冊子内の記事を監修しました。

光田教授が監修した記事タイトルは「芳香浴の魅力とその可能性」で、学術的な側面から、人間の嗅覚の特徴や個人差、香りの広がり方や残り方、最新研究について解説しました。

### 日本アロマ環境協会のHPはこちら

<https://www.aromakankyo.or.jp/>



橋口宏衛講師(機械システム工学科)、

樋口恵一准教授(建築学科 都市空間インフラ専攻)

## YouTube「ゲームさんぽ」に出演しました

9月30日(月)、工学部 機械システム工学科 橋口宏衛講師と、建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻 樋口恵一准教授が、YouTube動画「ドローンの専門家と未来都市を巡る」に出演しました。



この動画は、ゲーム実況者「なむ」さんの人気企画「ゲームさんぽ」の最新作です。ゲームのプレー映像に対して、専門家がその人ならではの知識や考えに基づいたコメントをすることで、ゲームの世界観の奥深さ、専門分野の面白さを伝える動画となっています。

今回は近未来のロンドンを舞台としたゲーム「ウォッチドッグス レギオン」を題材に、ゲーム中に登場するドローンについて、両教員が専門知識を活かして鋭い考察を連発していきます。実況者の「なむ」さんとの軽妙な会話も必見です。下記のリンクからぜひご覧ください！

### 公開された動画はこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=Ae1Mcpw97pU&t=12s>



建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻では、名鉄ドローンアカデミーと連携して、ドローン操縦国家資格取得支援カリキュラムを導入しています。

### この取り組みは国内初となります。

詳しくは下記リンクをご確認ください。

[https://www.daido-it.ac.jp/document/drawn/drawn\\_curriculum.pdf](https://www.daido-it.ac.jp/document/drawn/drawn_curriculum.pdf)



## 新刊紹介

## 『入門政治学365日(改訂新版)』を共編著者として出版しました

柳原克行教授(教養部 人文社会)

教養部 人文社会教室 柳原克行教授が、政治学の教科書『入門政治学365日(改訂新版)』を共編著者として出版しました。この教科書は大同大学の他、日本全国各地の大学で活用されています。

タイトル: 入門政治学365日(改訂新版)

著者: 中田 晋自 編

松尾 秀哉 編、柳原 克行 編、臼井 陽一郎 編、

小副川 琢 編、小松崎 利明 編、平賀 正剛 編

出版社: 株式会社ナカニシヤ出版

発行日: 2024年5月10日(金) A5判 228ページ

ISBN: 9784779518041 定価: 2,640円(税込)

# 希望通りにいかなくとも「あるがまま」を喜んで生きる

私は体育教師を目指し日本体育大学に入りました。大学ではハンドボール部に所属していましたが、レギュラーにはなれず補欠選手でした。4年時の全日本選手権大会で“たまたま”レギュラー陣の調子が悪く、補欠の自分が試合に出ることができました。その大会が“たまたま”名古屋で開催され、そこに大同特殊鋼ハンドボール部の関係者が見に来られていました。

出身地(岐阜県)の教員試験を受験中に大同特殊鋼株式会社から入社のお誘いがありました。私の中で就職先としては全く頭に無く、ましてや



▲ロス五輪でシュートを打つ高村常務

鉄鋼業に関する知識など皆無の私が、このご縁によって鉄鋼会社に就職することになりました。

大同特殊鋼ハンドボール部(スタッフ&選手)の基本方針はアマチュアイズムで、仕事とハンドの両立が基本です。「一流プレーヤーである前に、一流の社会人たれ」ということで、仕事は定時までしっかりやった後、夜6時から練習をしていました。

大同特殊鋼ハンドボール部では、日本のトッププレーヤーや指導者から素晴らしいご指導をいただき、私自身をものすごく成長させていただきましたが、時にはイヤになり「辞めたい」と思うこともありましたが、そんな時は、可愛がっていただいた食堂のおじさんのところに行って愚痴をこぼしていました。

職場では、親子ほど年の離れた先輩が、ものづくりの奥深さと素晴らしさを教えてくださいました。また、様々な部署を経験させていただく中で多くの素晴らしい人たちに巡り合うことができ、大変充実した企業人生活でした。

振り返りますと、たとえ当初の希望通りにいかなくとも、与えられた環境の中であれこれまわりを考え過ぎず、全ての“ご縁”をありがたく受けとって「あるがまま」を喜んで生きることによって、幸せな人生を歩むことができるんだ、ということをしみじみ感じています。



▲ソウルオリンピック出場時同級生5人での写真(右端)

## 高村 誠一

64歳

常務理事  
法人本部長



|         |                           |
|---------|---------------------------|
| 1983年3月 | 日本体育大学<br>体育学部 卒業         |
| 1984年8月 | ロサンゼルス五輪出場<br>10位(ハンドボール) |
| 1988年9月 | ソウル五輪出場<br>11位(ハンドボール)    |
| 2015年8月 | 学校法人 大同学園<br>常務理事就任       |

## 退任教職員よりメッセージ



横山 弥生 教授  
情報学部  
情報デザイン学科

人生の1/3を大同大学にお世話になりました。教職員の皆様方の親切なご対応と多くの学生さんに巡り会えたことが私にとってのかけがえのない財産だと思っています。いつまでも優しい大同大学でいてください。教職員の皆様、卒業生、在学生のご健康とご活躍、大学の発展をお祈りしております。



神谷 康夫 教授  
教養部  
教職教室

長らく高校の教員を勤めた後、本学に参りまして、自分の教員生活の集大成という思いで毎日を過ごしていました。教職員の皆様のご支援と学生の皆さんの熱意に鼓舞されながらの充実した時間でした。ありがとうございました。



斉藤 貴伸 室長  
研究・社会連携  
推進室

私は、2017年4月に着任し、主に産学・社会連携活動の推進・支援業務に携わってきました。今後、大学の経営環境が厳しくなる時代を迎え、これらをさらに活性化させることにより本学の知名度を向上させ、入学者の確保に繋げていくことが必須の課題と考えます。皆様のご活躍と本学の発展をお祈りいたします。写真は数十年前の私です。

## 「DAIDO CAMPUS」の表紙を情報デザイン学科3年生の 山田陽菜美さんがデザインしました

前を向いている学生に様々な色の絵具が飛び散っているデザインは、色に染まったり混ざったりするのではなく、色を付けて自分をデザインしていったという想いを込めました。様々な経験をして自分の色を1つでも多く増やすことが成長だと考えます。背景は大同大学らしく理系らしさをだし、原色を使ってカラフルに目を

引くデザインにしました。

私は楽しそうだなと思ったことはどんどん挑戦しています。サークル活動ではバンドを組み、授業で学んだことを活かしてバンドのロゴも作りました。これからもこの表紙デザインのように楽しそうだなと思ったことに挑戦して、自分に新しい色を付けていきたいです。

